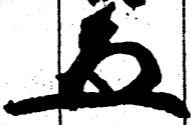


大正四年四月八日

書記官長



書記官



朝鮮總督府官制中改正ノ件外六件

審査報告

謹テ今回御詔詢ノ朝鮮總督府官制中改正ノ件

外六件ヲ審査スルニ(第一)朝鮮總督府官制中

樞密院

樞密院

改正ノ件ハ(一)總督官房、外事局、内務部、地方局、
 度支部、司稅局及司計局、農商工部、農林
 局及殖産局ヲ廢シテ局長六人ヲ減シ大体ニ於テ
 従来部局課、三階制ナリシヲ改メテ二階制ト為
 シ且局長ハ従来勅任又ハ奏任ナリシヲ勅任ニ限ル

コトトシ(第十條第十一條)(二)書記官十九人及
 定員中

事務官(第二號俸給)十九人ヲ廢シテ事務官(第
 改メテ

一號俸給)三十六人ヲ置キ内一人涉外事務ヲ掌

ルモノニ限り勅任ト為スコトヲ得ルコトトシ(第十一條

第十六條第十七條)(三)參事官ヲシテ舊慣制度

ノ調査ヲ兼掌セシムルコトヲ廢シ (第十四條) (四) 技

師一人通譯官一人ヲ減シ (第十一條) (五) 特別任用ノ

規定ニ依リ朝鮮總督府事務官ノ職ニ在ル者ハ本改

正施行ノ際ニ限リ新設ノ朝鮮總督府事務官ニ

任用スルヲ得ルコトトシ (附則第二項) (六) 今般ノ改

正ニ依リ廢官トスル者ニシテ更ニ他官ニ任用スル

モノニ對シ辭令省畧ノ規定ヲ設ケムトシ (附則第

三項第四項) (第二) 大正元年勅令第四十八號

朝鮮總督府書記官及事務官ノ特別任用ニ關スル

件中改正ノ件ハ從來問島又ハ安東ニ在勤スル總

領事又ハ領事ハ朝鮮總督府書記官ニ副領事

ハ朝鮮總督府事務官ニ兼任セシムルヲ得タリシモ今

般書記官^{ヲ廢シ}兼事務官ヲ改メ事務官ヲ置クコトトスル

ニ付總領事領事又ハ副領事ハ何レモ事務官ニ兼

任セシムルコトヲ得ルコトト為サムトシ(第三)中樞

院官制中改正ハ件ハ朝鮮總督ハ中樞院ヲシテ舊

慣制度(朝鮮)ニ關スル事項ヲ調査セシムルヲ得ル

コトト為シ通譯官一人ヲ減シ通譯生ヲ置キ判任官五

人ヲ増サムトシ(第四)朝鮮總督府通信官署職員

特別任用令ハ今般同官署官制ヲ改正スルニ付(一)

同官署職員ノ特別任用ニ關シ現行ノ規程ヲ廢

シテ大体ニ於テ為替貯金局及地方逓信官署職

員特別任用令ト同一ノ規程ヲ設ケ(二)同官制ノ

改正ニ依リ逓信副事務官ヲ置クニ付本改正施行ノ

際ニ限り逓信事務官ノ職ニ在ル者ヲ逓信副事

務官ニ任用スルニハ銓衡ヲ要セサルコトトシ(第五)

朝鮮總督府臨時土地調查局職員特別任用令中

改正ノ件ハ今般臨時土地調查局官制ヲ改正シ

副事務官ヲ置クニ付(一)從來ノ事務官特別任用

ニ關スル規定ヲ副事務官ニ適用スルコトト為シ(二)

本改正施行ノ際ニ限リ同局事務官ノ職ニ在ル

者ヲ同局副事務官ニ任用スルニハ銓衡ヲ要セ

サルコトトシ(第六)朝鮮總督府地方廳職員特

別任用令ハ(一)府尹(從來第一號俸給ナリシヲ今

般第二號俸給ニ改メトス)及府事務官(從來

第二號俸給ナリシヲ今般第三號俸給ニ改メトス)

及島司(今般新設セムトスルモノニシテ第三號俸給)

ニ對シ特別任用ノ規定ヲ新設シ(二)同一人ヲシテ

島司及警視ヲ兼ホシムルヲ要スル場合ニ於テ兩

官相互ニ兼任セシメ得ルコトト為シ(三)本令施行ノ

際ニ限リ總督府事務官ハ總督府道事務官ニ總
督府道事務官ハ府尹ニ銓衡ヲ經スシテ任用シ
得ルコトト為サムトシ(第七)朝鮮ニ於ケル官立公立
學校ノ訓導又ハ副訓導ノ休職ニ關スル件ハ右
學校ノ訓導又ハ副訓導教員養成ノ學校ニ入

學スルトキ休職ヲ命スル場合ニ於ケル休職期間
及休職給ニ關シテ特別ノ規定ヲ設ケムトスルモ
ノニシテ何レモ大体ニ於テ支障ナシト認ムレトモ
唯朝鮮總督府官制中改正ノ件ニ於テハ第十一
條及第十六條中ノ改正并第十七條ノ削除ニ

依り朝鮮總督府事務官ハ廢官トナルモノト為
シ從テ附則中ニ第二項及第四項ノ規定ヲ設ケ
タリト雖當局ノ説明ニ依レハ之ヲ廢官ト為スノ
必要ナキノミナラス前記諸條ノ改正及削除ヲ
以テ之ヲ廢官ト事^認スルモノナリト解スルコト能ハサル

ヲ以テ附則中第二項ヲ削除シ第四項ヲ未書
ノ通修正シ其他本件外六件ハ總テ原案ノ通
可決セラレ然ルヘキモノト思料ス
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス
大正四年四月十日

樞密院書記官長有松英義

樞密院議長公爵山縣有朋殿

樞密院

大正四年四月二十日

書記官長有



明治神宮造営局主事特別任甲、南三件書至
報告

證了今田所記論、明治神宮造営局主
事特別任甲、南三件

之書至之、本件、今般明治神宮